

第五期中期計画案に関する第五回分科会でいただいた委員意見

委員	委員意見
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Horizon-3として、産技研自身の新技術の探索や知見の蓄積、中小企業の革新的な技術やサービスの創出を後押しするような取組は期待できる。ぜひ進めてほしい。
大橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Horizon-3について、新しい事業への挑戦は難しいものだが、それを通じて技術を習得されていくという点は共感したところ。 ・「支所の第五期位置づけを一部変更」の資料に「生活工学センターを設置」との記載があるが、組織としては具体的にはどのような変更なのか。
桑田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先を見据えると、やはり人材育成が大切と考える。中期計画案において、第五期に向けた3つのキーワードの中に「次世代・次々世代を担う人材の育成」を掲げられている点は評価できる。 ・加えて、今いる研究員や職員が新たな技術を習得するためには、新しい視点をもたらすような人材育成が必要と考える。また、中堅の立場にあたる職員のリカレント教育なども必要と考える。
豊田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の技術だけを支援し続けるようなセンターであってはならないという、将来に向けた危機感を踏まえた計画案となっており、期待できる。
宮川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第四期中期計画から内容を改善されたという印象。 ・中小企業は物価や賃金の上昇で大変な状況にある。その中で、中小企業自身が自社の持っている技術をいかに活用するのかという視点が必要で、そのために都産技研の支援を必要としている。 ・東京の中小企業が、企業として活躍するためには、研究員がマネジメントも少し学んで技術と中小企業をより結びつけることが大切である。研究員が企業へ働きかけることで、一つの支援からさらに他の支援へ発展するような一歩進んだ支援ができるよう、仕組みや組織作りを期待している。